

奈良県立奈良朱雀・奈良商工高等学校  
創立100周年記念式典  
学校長 式辞要旨

日ごとに秋も深まり、色彩あふれる紅葉の美しさに心弾む季節となりました。

本日、この良き日に、奈良県県副知事・土屋直毅様、奈良県教育委員会教育長・吉田育弘様をはじめ多数のご来賓の方々、そして多くの同窓生の皆様、育友会関係各位にご臨席を仰ぎ、ここに奈良県立 奈良朱雀高等学校・奈良商工高等学校創立100周年記念式典をかくも盛大に挙行できますことは、この上ない大きな喜びであります。高席からではございますが、教職員を代表し心より御礼を申し上げます。

本校は大正10年に奈良県立商業学校として、産業界の期待を大きく担い、奈良県唯一の商業学校として奈良市船橋町の船陵の地に設立されました。草創期は、第一次世界大戦後の日本経済の発展と海外への市場拡大などにより、日本経済が大きく飛躍を遂げるなか、順調に発展を成しつつありました。しかし、その後の日中戦争・第二次世界大戦により、勤労働員や軍事教練等、本来の学校教育の場とは異なる環境へと生徒達は置かれていきました。

こうした社会情勢を反映するかのようになり、商業学校の工業科転換が進められ、電気科・機械科を設置する工業学校を併置した状況下で終戦を迎えました。終戦後は商業学校と工業学校が一つになり再スタートしましたが、昭和23年には学制改革が行われ、総合制・男女共学が始まり、職業教育の多様化が導入されることとなりました。

こうした歴史の移り変わりとともに、  
奈良県立商業学校、  
奈良県立奈良商業学校と奈良県立奈良工業学校の併置、  
奈良県立奈良商工学校、  
奈良県立奈良商工高等学校、  
総合制奈良県立奈良高等学校、  
奈良県立奈良商工高等学校、

その後、奈良商工高等学校の工業科は募集停止となり

昭和42年には、奈良県立奈良商業高等学校が設置されました。

平成19年には奈良県立奈良商業高等学校と、昭和37年に奈良市秋篠に開校しました奈良県立奈良工業高等学校の統合校として奈良県立奈良朱雀高等学校に、

さらに、令和3年度、創立100年の節目の年に、奈良県立奈良商工高等学校と変遷を経てまいりました。

奈良県立奈良商業高等学校時代の昭和42年には、平城京朱雀門の南に位置し、東に大安寺、西に薬師寺・唐招提寺を望む歴史と伝統が現代に息づく奈良市柏木町の地に新校舎が竣工し、現在に至っています。

平成21年には現実棟が完成し、県内有数の施設・設備を有する専門高校として、未来を担うスペシャリストの養成に努めています。

大正・昭和・平成・令和の4つの時代におたり、各界・各方面で活躍される多くの有為な人材を輩出して参ったその歴史と伝統は、改めて本校の歴史と伝統の重さを感じるものであり、現在に学ぶ生徒の誇りともなっています。

私ども教職員は、本校教育に携わることのできる幸せと責任を自覚し、今回の100周年における、「築け 新たな伝統 輝く未来へ」のテーマに添い、これからの本校2世紀へ向けての充実と発展に努力してまいりたいと考えております。

平成の時代が終わり令和の時代が訪れ、Society5.0の社会に向かい、技術革新のスピードが加速する今日。大きな変化が身の回りで起きています。少子高齢化やAI・IOTなどの進展、グローバル化の加速など社会の変化はますます激しくなっています。これからの時代を生きていくには、予測困難な社会の変化に受け身で対応するのではなく主体的に向き合い、自らの可能性を最大限に発揮し、自ら人生を創出する力が求められていきます。

在校生の皆さん、皆さんには高い目標を掲げ、自らに厳しさを課し、努力を積み上げ、困難を乗り越える中で、有形無形の一生の宝を、高校生活の中で獲得していただきたいと思います。

伝統と校風を受け継ぎ、未来を担う世代へと成長してほしいと

願っています。

最後になりますが、創立100周年記念事業をはじめこれまで本校の教育活動にご支援とご協力をいただきありがとうございました。県教育委員会、育友会、同窓会ならびに地域の皆様方に対し心より御礼申し上げますとともに、来賓の皆様におかれましては今後なお、ご指導とご支援を賜りますようお願いを申し上げます。式辞とさせていただきます。

令和4年11月2日

奈良県立奈良朱雀・奈良商工高等学校長 長谷川 智